

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会
23GHz 帯無線伝送システム作業班(第1回) 議事概要

1. 日時:平成30年7月30日(月)15:30~17:00

2. 場所:総務省(中央合同庁舎2号館)1階 共用会議室4

3. 議題

- (1) 「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討について
- (2) 構成員からのプレゼンテーション
- (3) 23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術基準の策定に向けた考え方
- (4) その他

4. 出席者(順不同、敬称略)

(1) 構成員

野田主任(スターキャット・ケーブルネットワーク)、上園主任代理(ジュピターテレコム)、石川(ヴィ・ネットワーク・システムズ)、石田(古河電気工業)、大原(マスプロ電工)、小竹(テレコムエンジニアリングセンター)、亀谷(国立天文台)、河井(NHK)、川西(KDDI)、北原(京セラコミュニケーションシステム)、柴田(日本ケーブルラボ)、高橋(シンクレイヤ)、谷澤(日本無線)、中島(日本ケーブルテレビ連盟)、中丸(日本CATV技術協会)、松下(DXアンテナ)、八木(NTTドコモ)、米川(上越ケーブルビジョン)

(2) 事務局

古賀、元廣(情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室)

5. 配付資料

- | | |
|---------------|--|
| 資料 23G 作1-1 | 「ケーブルテレビシステムの技術的条件」のうち、「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討開始について |
| 資料 23G 作1-2 | 「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討の進め方 |
| 資料 23G 作1-3 | 23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件の検討(概要) |
| 資料 23G 作1-4 | 「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の調査検討概要資料(北原構成員) |
| 資料 23G 作1-5 | 23GHz 無線伝送装置を利用した共同受信施設(河井構成員) |
| 資料 23G 作1-6 | 23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術基準の策定に向けた考え方 |
| 参考資料 23G 作1-1 | 「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件の調査検討」成果報告書 |
| 参考資料 23G 作1-2 | 23GHz 帯無線伝送システム関係法令(抜粋) |
| 参考資料 23G 作1-3 | 情報通信審議会令等 |

6. 議事概要

野田主任の挨拶の後、初回のため各構成員から自己紹介を行った。
その後、議事次第に沿って検討を行った。主な概要は以下のとおり。

(1)「23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討について

事務局より、資料 23G 作1-1、1-2、1-3に基づき説明があった。今後、検討を進め、本年 11 月頃を目標に作業班としてのとりまとめを行うことが確認された。

その後、野田主任により、当該作業班の主任代理として上園構成員が指名された。

また、主に以下の質疑が行われた。

○これまで 23GHz 帯無線伝送システムから隣接する無線システム等に対する影響等はあったか。

(野田主任)

○そういった事例は聞いてない。(亀谷構成員、八木構成員)

○電波天文の受信設備に対して、これまで片偏波であったものが多重偏波になることにより、入力信号が大きくなる懸念されるため、検討する必要がある。(亀谷構成員)

(2)構成員からのプレゼンテーション

北原構成員より、資料 23G 作1-4に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

○アンテナが送受分離型であることから、災害時のアンテナ合わせに手間が多くなってしまわないか。(野田主任)

○アンテナ調整が直下でできるようインジケータを用いるよう工夫が、引き続きアンテナが 1 面となるよう努力する。(北原構成員)

続いて、河井構成員より、資料 23G 作1-5に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

○光化改修施設は、どの程度あるのか。(亀谷構成員)

○2018 年 4 月時点で約 5500 施設の内 30 パーセント程度である。限界集落などの地域では、HFC ほかの対応を想定している。(河井構成員)

(3)23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術基準の策定に向けた考え方

事務局より、資料23G 作1-6に基づき説明が行われた。

(5)その他

事務局より、第2回 23GHz 帯無線伝送システム作業班の開催日程について、調整の上別途連絡する旨の説明があった。

以上